

私もチラシ配りをしたい！

私は、大学1年生の藤井さくら（仮名）と言います。6年生の2月、私たちは筑紫野市の「人権尊重のまちづくり」の勉強をしました。その中で、部落差別や障がい者差別など、基本的な人権が大切にされていないこと、そして、筑紫野市で市民の人権を守るための取組を行っていることを知りました。担任の先生も、自分の経験を熱く語られ、「一人ひとりが自分にできることをやっていこう。」と話されました。

その時、私は思ったのです。

「自分は、差別をなくすために、今まで何も行動していない。ぜひ自分のできることをやりたい」と。

数日後、私は、市長さんへ手紙を書きました。

私は今、人権学習をしています。私は差別を受けている人の気持ちを考えると、とてもつらいです。だから、これから人のために何かできることを考えました。その結果、私は家の前などで、ポスターやチラシを配りたいと思っています。そのためには、配ってよいかの許可が必要だと考えたので市長さんに手紙を書きました。

それから20日ぐらいたって、なんと市長さんから次のような手紙が届いていました。びっくりです。

あたたかさを感じて

その年の7月2日（月）午後6時、私は、一人の友だちを誘って西鉄二日市駅前に行きました。そこには、市長さんや議員の方たちが数人いました。私たちは、市長さんと共に、電車に乗り降りする人に啓発標語が入ったボールペンと「部落差別解消推進法」の内容が書いてあるチラシを手渡していきました。

何しろ初めての経験で、自信がなく、はじめは恥ずかしい思いでいっぱいでした。呼びかける声も大きくはありません。でも、少しずつ慣れてきて、

「7月は、同和問題啓発強調月間です。」

と言って渡すことができるようになっていきました。駅から降りてくる人は、どちらかというと私たちの方によってきて、手を差し伸べてチラシを受け取り、

「ありがとう。」とか「頑張ってるね、応援しているよ。」とか「家に帰ってから読むね。」という声掛けをしてくれました。

わたしは、そういう声掛けに励まされながら、そして、人のあたたかさや優しさを感じながらチラシ配りを終わることができました。終わった後には「参加してよかった」とか、「先生、私にもできたよ」という気持ちでいっぱいでした。

藤井さんが学校での人権学習をすっかり受け止めていくことに、私もとても嬉しく感じました。特に感心したのは、「差別を受ける人の気持ちをしっかりと考え、人のために自分のできることを考えたい」というところです。（中略）筑紫野市では、差別をなくし人権尊重のまちづくりを進めるために、駅や大きな店の前で、チラシなどを配布しています。市長の私は、7月に駅前配布する予定です。もしよかったら、一緒に配布していただいたら助かります。

思いを引き継いで

4月から私は校区の中学校に通いました。6月のはじめ、市役所の人から、連絡がありました。

「7月が近づきましたが、実際に街頭でのチラシ配りに参加されますか？」と。

中学生になり、6年生の時の気持ちが続いているか不安だったみたいです。その時、差別で苦しんでいる人や差別をなくす取組のことを真剣に話してくれた小学校の先生、中学校でいじめのことを泣きながら話してくれた先生のことを思い出し、私も差別をなくし、人権を大切に取る取組に参加すると返事をしました。



これからも

基本的な人権は、誰にでも保障されています。しかし、自分ではどうしようもない生まれや出身を理由に差別する人がいることを聞いた時、「そんなの絶対おかしい」と思いました。私に教えてくれた先生たち、街頭で応援してくれた市民の方々も同じ気持ちだと思います。

私が街頭啓発に参加したことがきっかけになって、次年から市内の中学生も参加するようになり、今年も21名が参加しました。

私も後輩たちに負けないように、人のあたたかさやつながりを奪っていく差別をなくすため、活動を続けていきたいと思っています。

